

開催地名：埼玉県三郷市	
開催日時	令和3年11月19日（金） 10:25～11:55
開催場所	三郷市立前間小学校
語り部	平山和哉 （福島県いわき市）
参加者	4年28名、5年41名、6年21名、教職員6名 計96名
開催経緯	・東日本大震災を直接経験していない児童が半数を占めている。 ・震災を経験した学年も、震災の記憶（教訓）の風化や防災・減災への意識が低下している。
内容	(1) 語り部が目にした震災被害 私が勤務していた消防署は海から10キロ以上離れているため、津波を直接目にしていない。地震による揺れが発生している最中はずっと地鳴りが聞こえていた。消防本部は耐震工事が施されている建物のため、棚が倒れるなどの被害は受けなかった。私自身の住居も、被害の大きかったいわき市にあるが、幸いなことに目立った被害はなく、玄関のブロック塀の破損程度で済んだ。しかし、一歩外に出ると景色は一変していた。家屋が流され、防波堤がなくなり、多数の死者が出ていた。当時私がいたのは消防本部の指令室で、そこへ無線で情報が入ってきた。最初の連絡は、被害を受けた地区に関するもので「壊滅状態」という普段聞かない表現が使われていた。 (2) 東日本大震災時の被害状況 いわき市では468名の方が亡くなった。建物の被害は9万1千戸にのぼる。災害が起きてから72時間を超えると生存率は大きく下がる。地震が発生した3月11日はまだ気温が低く、行方不明になっていた方で、生存が確認された方は非常に少ない。 インフラが被害を受けたことも救助活動に大きな影響を与えた。水道管が破裂し、消火活動が遅れたり、道路が崩れたために緊急車両が現場へ向かうのに数倍の時間がかかったり、様々な影響があった。インフラへの被害は震災当日だけでなく、避難所での生活にも大きく影響し、電話は約2週間、水道は約42日、ガスは約1ヶ月以上、それぞれ復旧までに要している。そのため避難所では自衛隊がお風呂をつくるなどして対応していた。 (3) 地震が発生した際の通報の状況 東日本大震災による揺れは、約190秒。3分以上の揺れがあった。非常に長い時間ではあるが、揺れている最中は何もできなかった。揺れている

	最中は、119 番通報も 1 件もなかった。通報があったのは揺れが収まった直後からで、深夜までシステムの許容範囲を超える通報が続いた。記録では 1177 件の通報があったとされているが、いわき市には集中的に電話がかかってきていたため、実際にはこの 10 倍以上の通報があったと予想される。
開催地より	教師も含めて、実際に東北地方で東日本大震災を経験された方のお話を直接聞いたり、質問したりするのは初めての経験だったので、大変勉強になった。震災直後から 119 番通報への対応が始まったという、まさに救助活動の最前線にいた平山様のお話は、地震の怖さだけでなく、被災地のより詳しい状況や、どのような救助活動が行われていたのかという、テレビ等ではなかなか知りえない貴重なお話だったと思う。 今後、地震に対する避難訓練は勿論、数年前に埼玉県越谷市で起きた竜巻等、異常気象に対する避難訓練も行う必要があると感じている。2020 年の 7 月に、三郷市内で局地的に竜巻による被害があり、前間小学校も校門が倒れる、自転車置き場が柱ごとずれる等の被害があった。そういった点から、避難訓練だけでなく、学校として防災マニュアルの見直しをする必要も感じている。